



©2005 石塚真一/小学館

第 143 号(平成 31 年3月 19 日)

信州の山岳遭難現場と全国の登山者をつなぐ
特別隊員

島崎 三步 の「山岳通信」

この通信は長野県の山岳地域で発生した遭難事例をお伝えし、「安全登山」のための情報提供をしています。(詳細は以下のとおり)

長野県警山岳安全対策課からのワンポイントアドバイス

3 月 2 週は、3 件のバックカントリースキー(スノーボード)中の遭難が発生し、1 名が亡くなりました。この時期、バックカントリー滑走中による遭難が後を絶ちません。バックカントリーでの滑走は、雪崩、立木への衝突、道迷い等、危険の高いスポーツです。樹林帯ではヘリコプターでの救助が困難であり、地上から救助に向かわなければならず、相当の時間を要します。自分たちでトラブルに対応できるよう、セルフレスキューやビバーク訓練を行ってから入山しましょう。また、自分の滑走技術を過信した無理な滑走は、命に関わる行為です。残された家族のことを考えて行動しましょう。

平成 31 年中の山岳遭難発生状況(平成 31 年1月1日~3 月 10 日)

区分	発生件数	死者	行方不明	負傷者	無事救出	遭難者計	内)死傷者
平成 31 年	40	6		19	22	47	25
平成 30 年	25	4		12	13	29	16
前年同期比	+15	+2	±0	+7	+9	+18	+9
内)BC	+5	±0	±0	+1	+8	+9	+1

山域別発生状況

区分	件数	件数 比率	死者	行方不明	負傷者	無事救出	遭難者計
北アルプス	槍穂高	1	2.5%			1	1
	後立山	12	30.0%	1		5	11
	その他	9	22.5%	1		6	2
	計	22	55.0%	2	0	12	13
中央アルプス	6	15.0%	3		3		6
南アルプス		0.0%					0
八ヶ岳連峰	5	12.5%			3	2	5
その他の山岳	7	17.5%	1		1	7	9
計	40		6	0	19	22	47

態様別発生状況

区分	件数	件数 比率	死者	行方不明	負傷者	無事救出	遭難者計
転・滑落	19	47.5%	4		15		19
転倒	2	5.0%	1		1		2
病気	1	2.5%				1	1
道迷い	9	22.5%				15	15
落石		0.0%					0
雪崩	3	7.5%	1		2		3
落雷		0.0%					0
疲労凍死傷		0.0%					0
不明・他	6	15.0%			1	6	7
計	40		6	0	19	22	47

男女別・年齢別比率

区分	男性					(人)	女性					(人)	男女計		
	死者	不明	負傷	無事	計	比率	死者	不明	負傷	無事	計	比率	人数	比率	
19歳以下				1	1	16 39.0%				1	1	2 33.3%	2	18人 38.3%	
20代	2			7	9						0				9
30代			4	2	6				1		1				7
40代	2		8	5	15	20 48.8%	1			2	3	4 66.7%	18	24人 51.1%	
50代			4	1	5		1				1				6
60代			2	2	4	5 12.2%					0	0 0.0%	4	5人 10.6%	
70以上				1	1						0				1
計	4	0	18	19	41		2	0	1	3	6		47		
比率	87.2%						12.8%								

日付	場所	年齢	性別	態様	死傷別	概要
3月8日	北アルプス 白馬乗鞍岳	49	男	雪崩	負傷	単独でバックカントリースキー中、雪崩に巻き込まれ、負傷
8日、北安曇郡小谷村の杓池高原天狗原付近において、男性がバックカントリースキー中に雪崩に巻き込まれる山岳遭難が発生し、通りかかった男性らに救出され、県警へリで救助しました。						
3月9日	北アルプス 唐松岳	32	男	滑落	負傷	バックカントリースノーボード中、滑落、負傷
9日、北アルプス八方尾根において2名が滑落する山岳遭難が発生し、男性Aさん(32歳)については県警へリで救助しました。						
3月9日	北アルプス 唐松岳	48	男	滑落	死亡	バックカントリースノーボード中、滑落
9日、北アルプス八方尾根で発生した山岳遭難で、遭難した男性Bさん(48歳)を、10日、県警へリで救助しましたが、死亡が確認されました。						

内容は長野県警察本部の発表時点のものです。

* 本通信に関する質問・意見は「長野県観光部山岳高原観光課」mt-tourism@pref.nagano.lg.jp までお寄せください。

＝発行：長野県山岳遭難防止対策協会＝